

個人ポートフォリオサイトの構成とデザイン案

全体コンセプト

- ・**ターゲットと目的:** フリーランスエンジニアとしてのスキルと実績をアピールし、「この人に仕事を頼んでみようかな」と思わせることが目的です。特にAIを用いた「**パイプコーディング**」（AI支援コーディング）による圧倒的な開発速度・対応力を強みとして前面に押し出します。これは近年注目される次世代の開発手法であり、コードの文法や細部よりも問題解決やコンセプト検討に注力できるメリットがあります^①。最新トレンドであるこの技術力を示すことで、モダンで先進的なエンジニア像を印象付けます。
- ・**構成方針:** トップページは情報を絞ったシンプルな構成にします。訪問者に強い第一印象を与えつつ、詳細情報は興味を持った人が遷移して読めるように段階的に提供します。例えば、トップでは名前やキャッチコピー、簡潔な紹介だけを掲載し、詳しい実績やスキルは別ページまたは下層セクションで展開する形です。この「最小限→詳細」の流れにより、シンプル好きな本人の好みにも合致し、閲覧者にも負担をかけません。
- ・**グローバル対応:** サイトの主言語は日本語ですが、**英語版への切替**（言語トグル）を実装し、海外からの閲覧者にもアピールできるようにします。円安の追い風を活かし、海外クライアントからの案件獲得も視野に入れているためです。実際、日本人エンジニアの中には、**海外での活動を前提にポートフォリオに英語を織り交ぜる例**もあります^②。本サイトでも全ページをバイリンガル対応させ、グローバルに情報発信できるようにします。

セクション構成

サイトは必要最小限のページ数・セクションで構成し、内容ごとに整理します（ページ数は少なくとも問題ありません^③）。トップページを含め**3〜5つ程度の主要セクション**を想定しています。参考として、ポートフォリオの例では「**イントロ（トップ）・プロジェクト一覧・お問い合わせ**」の**3セグメントにまとめる構成**が洗練されているとされています^④。以下に提案構成を示します。

- ・**ホーム（トップページ）** - **氏名・肩書きとキャッチコピー**を中心に配置するメインページです。例：「AI駆動コーディングで圧倒的速度を実現するフルスタックエンジニア」など、一言で強みを表現するコピーを掲載します。加えて、ごく簡単な自己紹介文や代表的な実績のハイライト（例：「6300行のシステムを2ヶ月で開発」等）を載せ、訪問者の興味を引きます。デザインは余白を活かしたシンプル＆モダンなビジュアルで、情報量は絞ります。ナビゲーションメニュー（他のセクションへのリンク）と、言語切替ボタンを明示し、次に進みやすくします。
- ・**プロフィール / 実績紹介ページ** - エンジニアとしての詳しいプロフィールや強み、実績をまとめたページです。内容例：
- ・**経歴・自己紹介:** 開発者としてのバックグラウンドや理念を記載します。文章は端的に、しかし人柄や価値観が伝わるよう工夫しましょう（閲覧者にキャラクターを感じてもらうことが大切^⑤）。
- ・**強み・提供できるサービス:** 「AI×コーディングによる高速開発」「業務システム自動化が得意」等、提供可能なソリューション分野を列挙します。ユーザーの課題に対して何ができるかを明確に示します。
- ・**スキル一覧:** プログラミング言語、フレームワーク、クラウド/ツールなどのスキルセットをカテゴリ別に列挙します。視覚的にアイコンを用いた一覧や、主要技術スタックを強調するレイアウトにすると効果的です。スキルセクションは情報量が多くなりがちなので折りたたみ表示やタブで分類するなど、**一度に表示しすぎない工夫**をすると見やすくなります。

- ・**開発手法（AI活用フロー）**：ChatGPTやClaudeなど複数AIを組み合わせた独自の開発プロセスが強みであるため、その進め方を簡潔に図解またはステップ列挙で紹介し（要件定義から実装・テストまでAIと協働するワークフローなど）。これは他の開発者との差別化要素なので、サイト訪問者に「最新技術を駆使して効率的に開発してくれる人だ」という印象を与えます。
- ・**プロジェクト／実績詳細ページ**－ 具体的なプロジェクト事例や成果物を紹介するページです。フリーランスとしての実績を**ケーススタディ形式**で数件掲載します。例えば：
 - ・**「出席管理システム」（教育機関向け）**－ 課題と解決策、使用技術（GAS+Pythonなど）を箇条書きで示し、AI活用により短期間で開発した旨を強調。
 - ・**「PowerPoint資料自動生成ツール」**－ 同様に導入効果や技術スタックを記載。
 - ・**「学習管理システム（LMS）」**－ 概要と成果を記載。
 各プロジェクトには分かりやすいタイトルと短い説明文を付け、必要に応じて画像や図表（システム画面のスクリーンショットや構成図）も掲載します。特に印象的な数値（例：「**2ヶ月で従来6ヶ月相当の開発完了**」など）は強調表示して実力をアピールします。今後実績が増えた場合でもこのページに追加していくだけで対応できるよう、**カード形式や一覧リスト形式で増減に柔軟なレイアウト**にします。
- ・**お問い合わせ（Contact）**－ 仕事依頼や連絡を受け付けるページです。内容はシンプルに、連絡手段とフォームを用意します。基本的にはメールアドレスの記載や、直接メール送信できるフォーム（名前、メール、用件などのフィールド）を設置します。加えて、**GitHubやLinkedIn、Twitter**など本人が公開している関連リンクをアイコンで表示し、興味を持った人が追加情報を得たり接触しやすくします。お問い合わせページへの導線は常に明示し（メニューや各ページ下部に「Contact」ボタン配置など）、コンバージョン（連絡・依頼）に繋がめます。ポートフォリオを見る人に最終的に取ってほしいアクションは「連絡してみる」ことなので、サイト全体でCTAを意識します⁶。

※上記は主な構成案ですが、必要に応じて**ブログ**（技術記事や活動報告）、**お客様の声**（過去クライアントからの推薦）などのセクションを将来的に追加できるよう、メニューやデザインには拡張性を持たせます。現時点では情報過多を避けるためこれらは省略し、まず上述のコア部分に注力します。

デザイン・スタイル

- ・**デザインテーマ**：「シックでモダン」な印象を与えるデザインを提案します。具体的には、色調は**落ち着いたダーク系またはモノトーンベース**にアクセントカラーを一色加えるスタイルが考えられます。近年、背景を暗色にしたダークモード風のポートフォリオは人気が高まっており、まだ一般には多くないため差別化にもなります⁷。例えば背景を深いネイビーやチャコールグレー、文字を明るいグレー～白、アクセントにポイントでブルーやエメラルドグリーンを使うと、クールで先進的な印象になるでしょう。もちろん最終的な配色は好み次第ですが、「派手すぎず品があり、技術者らしい現代的センス」を目指します。
- ・**レイアウトと余白**：全体的に**ミニマルで洗練されたレイアウト**にします。余白を十分に取り、情報を整理して見せます。装飾や要素は必要最低限にし、コンテンツ（テキストや実績）が際立つようにします。ミニマルデザインは時代を問わず効果的で、どんな業種のポートフォリオにも適合する手法です⁸。ごちゃごちゃ感を避けることで、ユーザーが内容に集中できるだけでなく、デバイスを問わず快適なUXを提供できます⁹。
- ・**タイポグラフィとフォント**：見出しには太めのサンセリフ体、本文には読みやすい標準的なサンセリフ体（Noto SansやRobotoなど日本語・英語双方で可読性の高いフォント）を使用します。重要なキャッチコピーや数値実績は目立つよう大きめのサイズや差し色でデザインし、訪問者の視線を誘導します。
- ・**視覚要素**：シンプルなものにもモダンさを演出するため、**さりげないアニメーション効果**やインタラクションを取り入れます。例えばページ遷移時やセクション表示時のフェードイン、実績紹介カードにマウスオーバーで色が反転する効果、プログレスバー風の要素（スキル習熟度の視覚化）などです。ただし過度なアニメーションや派手すぎるエフェクトは避け、サイトの洗練さを損なわない範囲に留めます。「少し動きがあるとモダンだけど、やりすぎない」バランスを意識します。

- **パーソナライズ:** デザインのどこかに本人の個性を感じられる工夫も盛り込みます。例えば**本人の写真やアイコン、ロゴ**があればヘッダーやAboutセクションに配置します。また、「AI×開発」のイメージを視覚的に示すために、背景に抽象的なテック模様（回路網やデータ波形を連想させるラインアート）を薄くあしらう、あるいは実績セクションのアイコンにAIやロボットのモチーフを使う、といった演出も考えられます。サイト自体が本人のポートフォリオ作品でもあるため、デザインを通じて**エンジニアらしさと最新技術への感度**を示しましょう。
- **レスポンス対応:** 現代の標準として、PCだけでなく**スマートフォンやタブレットでも見やすいレスポンスデザイン**にします。シンプルなレイアウトと大きめの文字・ボタン設定によって、小さい画面でも可読性と操作性を担保します（スマホファーストの設計）。特に日本語と英語の両言語を含む場合、文字の長さが異なることによるレイアウト崩れも考慮し、柔軟なデザイン（可変グリッドや折り返し対応）を行います。

多言語対応

- **言語切替UI:** 全ページに日本語/英語を切り替えるトグル（ボタンやメニュー）を設置します。一般的にはサイト右上に小さな国旗アイコンや「EN/JA」といったリンクを配置する形です。トップページでは訪問者がまず日本語で表示され、英語に切り替えると英語版ページに遷移します。技術的には別ページ構成（`/en` 以下に英語版を用意）か、JavaScriptでの動的切替などが考えられますが、実装はエンジニアに相談しましょう。
- **翻訳とコンテンツ:** すべての主要コンテンツについて英訳テキストを準備します。ただ直訳するだけでなく、海外の読者向けに**文脈を補足**したり、アピールポイントの伝わりやすい表現に調整します。例えば実績の単位（円や日本の期間文化など）があればグローバルに通じる形に注釈する、また「バイブコーディング」の説明も海外では通じにくい場合があるため、「AI-assisted development」等の説明語を付記する、など配慮します。
- **英語ページのトーン:** 海外の潜在クライアント向けには、ややカジュアルすぎない**プロフェッショナルな語調の英語**で書くと信頼感が増します。一方で自己PRのニュアンスは日本語より強めでも問題ありません（海外では実績や強みを直接的に示す方が好印象なため）。英語版の文面はネイティブに近いチェックを行い、不自然な表現にならないようにします。
- **事例: 英語混在のポートフォリオ:** 参考までに、前述の平尾誠氏のように英語を交えて自己紹介するケースでは、「未知の外国人にも自分を伝えるため英語を混ぜた。海外で働く前提で作成した」と語られています²。本サイトではページ単位で日本語/英語を分ける予定ですが、グローバル志向を明確に示す上で**英語対応済みであること自体がアピールポイント**になります。海外の閲覧者にはもちろん、日本の企業に対しても「英語で情報発信できる＝視野が広く国際的」というプラスの印象を与えるでしょう。

連絡方法とCTA設計

- **基本連絡手段:** お問い合わせページには**メール**での連絡先を中心に記載します。具体的には専用のフリーメールアドレス（もしくは独自ドメインのメール）を掲載し、「お気軽にご連絡ください」といった案内文を添えます。またスパム防止のため、メールアドレスはテキストではなく問い合わせフォームの利用を促す形にしても良いでしょう。問い合わせフォームを設置する場合、送信内容が直接メール転送されるようエンジニアに設定してもらいます。項目は名前、メールアドレス、問い合わせ内容程度のシンプルなものにします。
- **ソーシャル・外部リンク:** 併せて**GitHubアカウント**へのリンクはぜひ載せます。閲覧者（特に技術に詳しい人）はGitHubでコードやプロジェクトをチェックすることで信頼性を測ることがあります。また**LinkedIn**や**Twitter(X)**など職歴・活動が分かるSNSがあればリンクボタンを配置します。アイコンを使ったリンク集はフッターに設置するか、問い合わせページ内にまとめて表示します。これらにより、閲覧者が好みに応じた方法でコンタクトできます。
- **CTA配置: Call To Action（行動喚起）** はサイト内の各所にちりばめます。例えばトップページに「お問い合わせはこちら→」や「Let's Work Together」のようなボタンを目立つ位置に配置し、他の詳細ページを読み終わった末尾にも「>> お問い合わせ・お見積りのご相談はこちら」という誘導リンクを

置く、といった具合です。ポートフォリオサイトは単に見てもらうだけでなく、見た人に**アクションを起こしてもらうこと（問い合わせやオファー）**が重要であると指摘されています⁶。そのため、スタイリッシュさと同時に「連絡してみよう」と思わせる導線づくりにも注力します。ボタンの色をアクセントカラーで統一して目立たせたり、ホバー時にエフェクトを付けるなどしてクリックを促す工夫も良いでしょう。特に海外向けには英語で「Contact Me」ボタンを設置することでダイレクトに意思表示できます。

- **返信フロー**: これはサイトの範囲外ですが、問い合わせが来た後の**レスポンスの速さ**や**英語での対応**なども念頭に置いておくとう良いでしょう。せっかく海外から関心を持たれても対応が遅いと機会損失になるため、問い合わせフォーム経由の連絡にはできるだけ早く返信する体制を整えておきます。

ドメイン・ホスティング提案

- **独自ドメイン取得**: プロフェッショナルな印象を与えるため、独自ドメインでの公開をおすすめします。候補としては、名前やハンドルネームにちなんだ**.comドメイン**が汎用性・信頼性が高いです。例えば「tatsu.com」等（利用可能であれば）。他にも、エンジニアらしさを演出する**.dev**ドメインや**.io**ドメインも近年人気です。AI分野を強調するなら**.ai**ドメインという選択肢もありますが、価格や認知度も考慮して決めましょう。日本市場向けには.jpもありますが、今回はグローバルなリーチを意識するので国別より国際的なTLDの方が適しています。ドメイン名自体は極力シンプルで覚えやすく（名字やニックネーム+tech/devなどのキーワード組み合わせも検討）、名刺やSNSにも載せやすいものにします。
- **ホスティング環境**: 静的サイトとして構築し、信頼性とコスト面から**GitHub Pages**で公開する方法が有力です。GitHubリポジトリにソースを置き、自動デプロイすれば**無料でHTTPS対応の公開**が可能です。GitHub Pagesはエンジニアには馴染み深く、自身のGitHubアカウントからポートフォリオを発信できる点もメリットです。また、更新時もGitのプッシュで手軽に反映できます。代替として**Vercel**や**Netlify**といった静的ホスティングサービスも検討できます。これらはグローバルCDNが標準で、高速表示やフォーム機能サポート、カスタムドメイン設定も容易です。特にVercelはNext.jsなどモダンフレームワークとの親和性が高く、将来的にインタラクティブな機能を追加する場合にも便利でしょう。
仮にWordPressなどCMSを使う場合、手軽に更新できますが、今回のサイトはそれほど頻繁な更新や大量コンテンツは想定されないため、管理や表示速度を考えると静的サイト方式が適切と考えます。
- **パフォーマンスとSEO**: ホスティングはどの場合でも**グローバル向けに最適化**し、海外からのアクセスでも表示速度が速い環境を選びます（上述のCDN利用など）。また基本的なSEO対策（ページ毎の適切なメタタグ設定、英語ページには英語向けメタデータ等）も怠らないようにします。独自ドメイン+高速ホスティングにより、海外の検索エンジン経由でもヒットしやすくなります。サイト公開後はGoogle Analytics等でアクセス解析を設定し、国内外からの閲覧状況を把握できるようにしておくとう良いでしょう。
- **実装アプローチ**: 開発者としてのスキルを示す場でもあるため、サイト実装そのものも**手作り感と品質**にこだわります。極力ゼロから自分でコーディングすることでスキルアピールにもなります（業界の人間が見る場合、Wix等のテンプレート丸投げは推奨されません¹⁰）。とはいえデザインテンプレートをうまく活用し、必要に応じてカスタマイズするのは合理的です。現時点で特定のデザインは決まっていないとのことなので、AwwwardsやDribbbleで参考になったデザインを下敷きにしつつ、自分のカラーに合わせて改変する方針が良いでしょう¹¹¹。コーディングにはHTML/CSS/JavaScriptのオーソドックスな構成で問題ありませんが、ビルド環境やフレームワークを導入する場合はエンジニアと相談して決めます（例: 静的サイトジェネレータのJekyll/Hugo、またはReact系フレームワークなど）。重要なのは**将来的な拡張がしやすい構造**にしておくことです。新たな実績ページを追加したり、コンテンツを差し替える際に、HTMLの分離やコンポーネント化ができていてと管理が楽になります。エンジニアにはその点も考慮して実装してもらうよう要件に含めましょう。

以上が、現時点で考えられる個人サイト構成とデザイン・機能に関するアイディアです。シンプルさと情報量のバランス、そして国内外に響く訴求力を兼ね備えたポートフォリオを目指しましょう。これらの方針をも

とに要件定義書をまとめ、デザイナー/エンジニアと具体的な設計・実装の検討に進めることをお勧めします。

引用情報: 最近のポートフォリオサイト事例やデザイン動向を調査した結果、3ページ程度のシンプル構成（プロフィール・プロジェクト・連絡）の例 ⁴、ポートフォリオサイトは訪問者にアクションを促すよう設計すべきとの指摘 ⁶、海外志向で英語を織り交ぜた事例 ²、およびミニマルデザインの有効性 ⁸ やダークテーマのトレンド ⁷ などを確認しています。また、AI支援開発（バンプコーディング）の台頭により開発者が問題解決に専念できる新しいアプローチが広まっていることも踏まえてあります ¹。これらを参考に構成・デザインを検討しました。各引用元の内容はサイト制作の方針根拠として添えておりますので、実装担当の方とも共有してください。

⁴ ⁶ ² ⁸ ⁷ ¹

¹ ⁴ ¹¹ Best 15 Web Developer Portfolios List in 2025 - TurnKey

<https://turnkeystaffing.com/tech-trends/web-developer-portfolios/>

² ³ ⁵ ⁶ ¹⁰ Knowledge | 参考にしたい日本人デザイナー・エンジニアのポートフォリオサイトまとめ

<https://arutega.jp/knowledge/japanese-portfolio/>

⁷ ⁸ ⁹ 19 Best Portfolio Design Trends (In 2025) - Colorlib

<https://colorlib.com/wp/portfolio-design-trends/>